



# Bーぐる沿線協議会ニュース

第20号

平成30年11月発行 Bーぐる沿線協議会事務局 区民課庶務係（コミュニティ担当） 03-5803-1387

平成30年7月6日に沿線協議会が開催され、平成29年度の運行実績等が報告され、今年で30周年を迎えるドイツ・カイザースラウテルン市との交流事業に係るBーぐるのラッピングに関する説明がありました。

## Bーぐるの年間利用者数は2ルート合計で94万人、安定的に推移

平成29年度のBーぐるの年間利用者数は、千駄木・駒込ルートが495,794人、目白台・小日向ルートは445,973人、2ルート合計941,767人となり、この3年間安定的に推移しています。一日あたりの利用者数は千駄木・駒込ルートが平均1,358人、目白台・小日向ルートが平均1,222人で、区で定めている公的支援の目安（一日あたり1,200人）をクリアしています。

月別の利用者数については、両ルートとも春夏に比べて秋冬に減少する傾向がみられますが、とくに千駄木・駒込ルートでは前年度と比べて秋以降の減少が顕著でした。

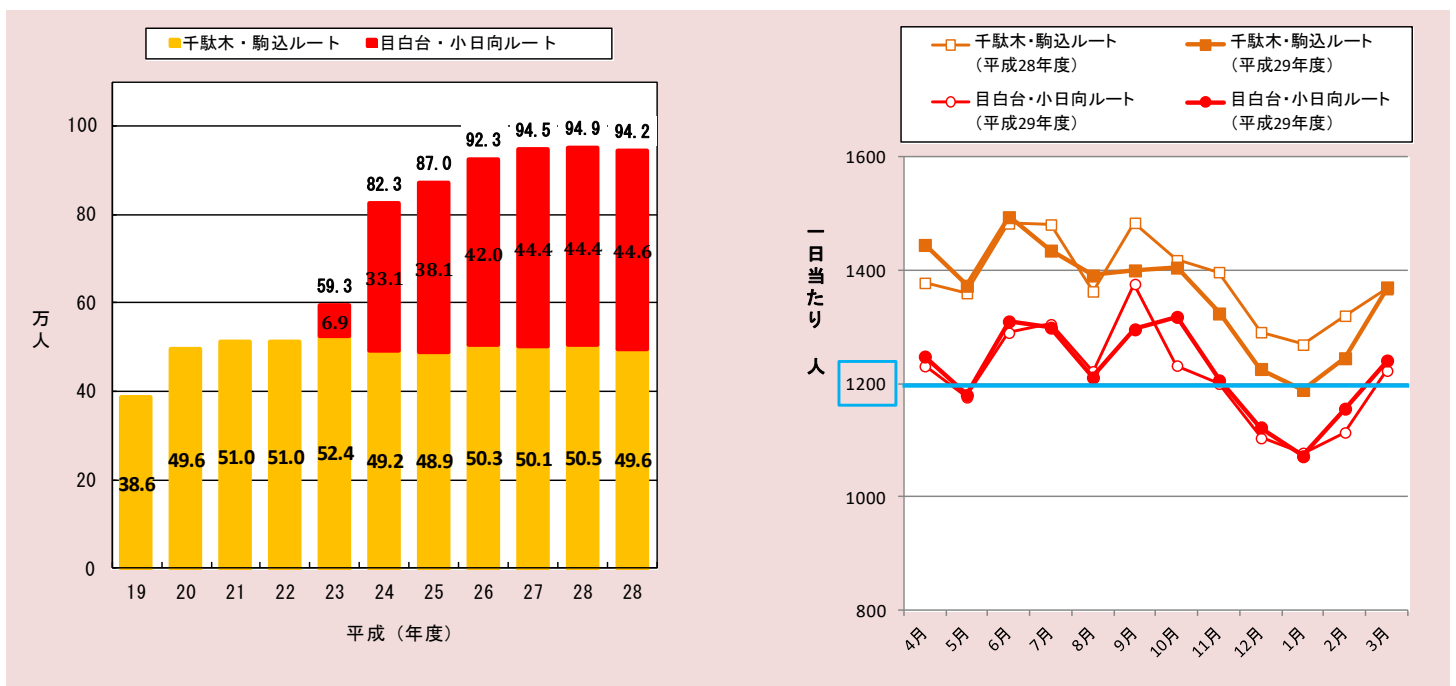
続いて日立自動車交通の宇田委員から、平成29年度決算の報告があり、前年に比べ金額が大きく増加している修繕費に関して、平成27年度に千駄木・駒込ルートに導入した車両が3年間無故障でしたが、クラッチ系統と電気系統の修理を全車に実施したこと、また施設使用料については、車庫が手狭になり新たに場所を借りたため賃借料を計上したこと等が説明されました。



宇田委員



Bーぐるの乗車実績の推移（左）と月別乗車実績（平成28・29年度）



## カイザースラウルン市のラッピングBーぐるが走ります。

アカデミー推進課から、今年がドイツ・カイザースラウルン市との姉妹都市提携 30 年の節目の年であることから、記念事業の一環としてBーぐる目白台・小日向ルート of 1 台にカイザースラウルン市のデザインのラッピングを計画している（運行は 9 月 10 日から来年 3 月 31 日まで）。また、本区が 2020 東京オリンピック・パラリンピックでドイツのホストタウンとなるので、カイザースラウルン市に限らずドイツの要素も加えて行きたいとの説明がありました。

その後の質疑で、カイザースラウルン市の周知方法としてBーぐるのラッピングに至った理由につ

いて、区民の認知度を上げるためには、Bーぐるを活用して多くの人々の目に触れることが有効と判断したためと回答がありました。



お披露目式で展示されたカイザースラウルン市のラッピングBーぐる（平成 30 年 9 月 10 日）

## 路線の最適化と収益性の向上に向け、官民の継続的な取組が不可欠

最後に竹田区民課長から、前回の沿線協議会で各委員から出された意見に対し、今後の取組方針について説明がありました。

現段階では、Bーぐるの最適な路線を判断するために詳細な分析が必要であると考えている。その上で課題解決のための整備の優先度や必要度を明確化して、最適な路線におけるニーズ調査を実施することで絞り込みを進めていく予定。また、複数委員から要望があったワークショップ形式での議論についても、「サービス向上」をテーマとしたワークショップを 8 月中に開催したいと考えている。

これに対し参加委員からは、「路線の決定は警察との調整が不可欠。調査結果だけでは結論が出せない部分もあるだろうから、早目の根回しが大事」、「ルートを変更した場合にどれくらい経費がかかるのかを知るためにも、過去の決算書等の情報を開示してほしい」といった意見や要望が出されました。

また、「コミバス事業は毎年赤字決算だが、区はこれを黒字にもっていきたいという考えはあるのか」という質問に対し、「運行事業者と運賃 100 円の取り決めをした以上運賃収入だけでは限界があるので、予算の範囲内で赤字を区が補填する約束になっている。区としては、毎年赤字だから事業を打ち切る考えはない」と回答しました。

さらに松井区民部長が「運賃収入以外に沿線等から協賛金を頂戴している。バスの後部に企業名を掲出したり、バス停のネーミングライツ、広告収入等で営業収入を増やす努力をしてきた。応援団の皆様方からそういった情報を寄せて頂ければ、担当が訪ねて営業をかけていくことも可能」と述べた。

最後に、元田会長が「全国の半数以上の自治体でコミバスの収支率が 3 割以下という中で、Bーぐるの 8 割超という収支率はかなりよい数字と評価できる。ただ、儲ければよい話なら民間でやればよいということになるので、公共性の中でいかに効率性を求めていくかが大切」と総括し、閉会となりました。



元田会長

### 編集後記

今回のカイザースラウルン号のラッピングは、Bーぐるが区民に対する広報手段として期待されていることの表れだと思います。現在のメンバーでの沿線協議会は今回で最後となりましたが、これまでの成果を引き継ぎ 11 月からの新体制で議論が深まることを期待しています。（N）